

講義名	家族社会学			授業形態	
担当教員	水野 英莉	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

家族について考えるのは、簡単そうでは実は難しい。多くの人が家族についての経験や知識、理想を持っていて、そこから距離を置いて客観的にとらえるのを妨げることがあるからだ。この講義では、自分が持っている思い込みやあたりまえをいったん離れ、家族社会学の視点や知識をもとに、家族について見直しを試みることを主なテーマとする。

講義は主に3つのパート、(1)家族社会学の基本をおさえる、(2)家族の今について理解を深める、(3)家族社会学の幅の広さに触れる、から構成される。それぞれのパートでは、身近なトピックを4-5つあつかう。

到達目標

- (1) 家族社会学の基本を理解している。
- (2) 家族の今について理解を深めている。
- (3) 家族社会学の幅の広さに触れ理解している。
- (4) 自分で学び、自分で考える姿勢を身につけている。

提出課題

- 毎回次の3つの課題がある。
- ・事前課題（講義前の予習課題）
- ・講義内課題（個人課題やグループ課題）
- ・事後課題（講義後の復習課題）

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

- ・質問に対し、講義内、あるいは次回講義内に回答する。
- ・課題を採点し評価やコメントを送る。

評価の基準

- ・事前課題30%
- ・講義内課題30%
- ・事後課題40%

注意
 ・事前課題および事後課題は合格ライン（80%）に達するまで何度も再提出が必要。
 ・すべての課題は合格ライン（80%）を超える必要がある。

履修にあたっての注意・助言他

- ・事前課題、事後課題など、講義時間以外にも、自分で学習する時間を必要とする講義である。自分で学ぶ姿勢を身につけるという講義の目標をよく理解して履修すること。
- ・1名から5名のグループに別れて作業をしたりディスカッションをしたりすることが多くある。複数名のグループに属した人はグループ内での発言や協力姿勢が評価対象。

教科書

・入門 家族社会学.	永田夏来・松木洋人	新泉社	2300	9784787717047
------------	-----------	-----	------	---------------

参考文献

その他

必要に応じ適宜資料配布をしたり、参考書・参考記事などを指示する。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- パート1 家族社会学の基本をおさえる
- 2.日本社会の家族変動
- 3.恋愛と結婚
- 4.家族の近代化と子育ての変容
- 5.家族と介護
- パート2 家族の今について理解を深める
- 6.社会階層と家族
- 7.離婚、再婚と子育て
- 8.成人した子どもと親との関係
- 9.多様化するパートナーシップと共同生活
- パート3 家族社会学の幅の広さに触れる
- 10.家族とお金と愛情
- 11.結婚差別問題と家族
- 12.セクシュアル・マイノリティと子育て
- 13.子育てでひろはにおけるやりとりとつながり
- 14.ポスト工業化社会への移行から考える家族と政治
- 15.まとめ

- 予習と復習
- 1 予習：教科書の復習と課題テストが合格ラインになるまで受験する（120分）
 - 復習：事後課題が合格ラインになるまで受験する（120分）
 - 2 予習：教科書の復習と課題テストが合格ラインになるまで受験する（120分）
 - 復習：事後課題が合格ラインになるまで受験する（120分）
 - 3 予習：教科書の復習と課題テストが合格ラインになるまで受験する（120分）
 - 復習：事後課題が合格ラインになるまで受験する（120分）
 - 4 予習：教科書の復習と課題テストが合格ラインになるまで受験する（120分）
 - 復習：事後課題が合格ラインになるまで受験する（120分）
 - 5 予習：教科書の復習と課題テストが合格ラインになるまで受験する（120分）
 - 復習：事後課題が合格ラインになるまで受験する（120分）
 - 6 予習：教科書の復習と課題テストが合格ラインになるまで受験する（120分）
 - 復習：事後課題が合格ラインになるまで受験する（120分）
 - 7 予習：教科書の復習と課題テストが合格ラインになるまで受験する（120分）
 - 復習：事後課題が合格ラインになるまで受験する（120分）
 - 8 予習：教科書の復習と課題テストが合格ラインになるまで受験する（120分）
 - 復習：事後課題が合格ラインになるまで受験する（120分）
 - 9 予習：教科書の復習と課題テストが合格ラインになるまで受験する（120分）
 - 復習：事後課題が合格ラインになるまで受験する（120分）
 - 10 予習：教科書の復習と課題テストが合格ラインになるまで受験する（120分）
 - 復習：事後課題が合格ラインになるまで受験する（120分）
 - 1 予習：教科書の復習と課題テストが合格ラインになるまで受験する（120分）
 - 復習：事後課題が合格ラインになるまで受験する（120分）
 - 1 2 予習：教科書の復習と課題テストが合格ラインになるまで受験する（120分）
 - 復習：事後課題が合格ラインになるまで受験する（120分）
 - 1 3 予習：教科書の復習と課題テストが合格ラインになるまで受験する（120分）
 - 復習：事後課題が合格ラインになるまで受験する（120分）
 - 1 4 予習：教科書の復習と課題テストが合格ラインになるまで受験する（120分）
 - 復習：事後課題が合格ラインになるまで受験する（120分）
 - 1 予習：教科書の復習と課題テストが合格ラインになるまで受験する（120分）
 - 復習：事後課題が合格ラインになるまで受験する（120分）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

社会構造や社会制度といった社会の仕組みや働き、地域社会における人びとの生活や文化などについて専門的な知識を有し、さまざまなことがらの社会における役割や意義を理解し、考える機会となる本科目は、本学および人間社会学部人間社会学科の学生として卒業時に身につけておくべき資質・能力を養う機会となる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- ・LMS（学習支援システム、キャンパスクロスやれるボン）での課題提出を行う。
- ・講義開始前に、必ず大学のメールアドレスとパスワードを確認しておくこと。

実務経験の有無及び活用

備考

自分で学習し、考える学生を育成するのが目的の講義であるため、毎回の事前・事後課題提出が求められる。この点をよく理解して履修すること。